

## 神奈川歯科大学大学院歯学研究科に 災害医療歯科学講座を新設

— 災害時の対応に優れた歯科医療従事者を養成する —

神奈川歯科大学大学院歯学研究科(研究科長:李 昌一教授)は、災害時の歯科医療のあり方を総合的に研究すること及び災害時に高い実践能力を備えた歯科医療従事者の養成を目指すため、平成24年度に本邦初の災害医療歯科学講座を新設しました。

東日本大震災において、歯科医師が様々な現場で貢献していたことは余り知られていません。特に、災害直後は歯が身元確認に大きく貢献しました。また、義歯を紛失された方が非常に多く、食事に困難をきたす状況の改善に貢献しました。これら歯科医師の活動は充分準備されたものではなく、場当たり

的に行われたのが実情で、災害時の歯科医療のあり方を総合的に研究することは緊急かつ重要な課題となっています。

神奈川歯科大学(理事長:鹿島勇、学長:佐藤 貞雄)でも附属病院(病院長:小林 優)による被災地への支援や歯学部法医歯科学講座では身元鑑定で多大な貢献をしてきました。また、震災後には横須賀市と防災協定を結ぶなど、災害に対して大学としての役割を積極的に果たしてきました。特に、神奈川歯科大学の所在する横須賀市は、活断層の集中地帯であり、東日本大震災の影響により地震発生の確率が大きく高まっていると

報告されています。そこで、神奈川歯科大学大学院歯学研究科は、災害医療歯科学講座を新設することとなりました。

災害医療歯科学講座は、大学院歯学研究科の取り組みとして研究教育を行う方針であり、オープン講座制をとり大学院教授の多くが兼任します。大学院生の募集開始は、平成25年度春季を予定しており、教育面では、歯科大学では珍しいAutopsy Imaging(Ai)センターを生かしユニークな教育プログラムを検討中です。また高度診療協力専門職養成コースにおいて、歯科医師以外の医療従事者にも門戸を開いており、広く人材を求めています。

さらにこれまで、災害と歯科を関連させた研究は非常に立ち遅れており、世界的にみても災害歯科

医療について系統だった研究は行われていません。しかし、本学は文部科学省私立大学戦略的基盤整備支援事業に「横須賀・湘南地域における大規模災害時の歯科医療実践モデルの創出と人材育成拠点の形成」を提案し、本年4月に採択されました。また、災害医療歯科学講座を母体として、この事業の中心的役割を果たす横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センターの設立を10月に予定しています。

以上を踏まえ神奈川歯科大学大学院では、横須賀・三浦半島地域を拠点として、学術的には世界に先駆けた災害歯科医療研究の構築と同時に歯科医療の面から災害に強い地域作りに貢献することを目指しています。

## 学生食堂 15年ぶりのリニューアル!

平成24年5月7日(月)に、学生食堂1F・2Fとも全面リニューアルオープン致しました。昨年暮れに実施した全学生への「食に関するアンケート」を基に、先進的かつ学生に支持される学食を目指し、正味3カ月間という準備期間の中、店舗スタッフ及び大学関係者の協力により無事オープンする事ができました。

**1階は店舗名「ワールド グルメ ジャンクション Y's branch」**

**(380席)**

大学では珍しい「フードコート」形式のレストラン。洋食・中華・韓国料理・ジャンクフードからスイーツまで、各専門店の味で提供しております。また、多くの学生から要望がありました、カフェの要素もとり込み、淹れたてのコーヒーをメインに、植栽をふんだんに散りばめたソファ席をホール半面に設け、ゆったりと落ち着いた空間が広がっております。

**2階は店舗名「わさび」(150席)**

地元、三浦で水揚げされた新鮮な魚介類と無農薬野菜などの旬の食材を使用した、和食中心の創作料理の店。地産地消に特化し、一品一品手作りで提供しております。こちらの店舗は、和食中心とあって雰囲気も「和」。フロアのメインは新たに設置された隠れ家的な和室。畳敷きではありませんが、高級料亭を想わせる重厚な造りは、昼食時間になると席の奪い合いが発生するまさにVIPルームとなっています。

両店舗ともオープン以降、連日、大盛況いただいております。予想外の好評さに、学生・教職員の方々には「食券待ち」「ご提供待ち」とご迷惑をおかけしていますが、両店舗とも誠意努力いたしておりますので、慣れるまでの間、暫くお時間を頂戴したくお願いします。また、現代のスピード時代、即「飽きられる」事のないよう、教職員・学生の声を聞きながら新メニューを開発し、息の長い店舗となるよう、皆様方のご支援・ご協力を賜りながら運営してまいります。



# 平成23年度決算について



理事長 鹿島 勇

平成23年度予算は、平成22年度黒字化への教職員のご協力に報い、今後の健全化への力の結集をお願いしたいとの思いから、あえて帰属収支差額の均衡を一年先延ばしにしたマイナスバランス覚悟の編成を行った。さらに、今年の年頭挨拶で、本学には“宿命としての負の遺産”のあることを説明した。本学は負の遺産として、確実性どころか元本保証すらないオリジナル有価証券を数種現有している。しかも、それらの中には償還日が2035年(平成47年)から2036年(平成48年)と長期のものもあり、解約するにも値のつかない状況にある。我々は、それらを減価償却引当特定

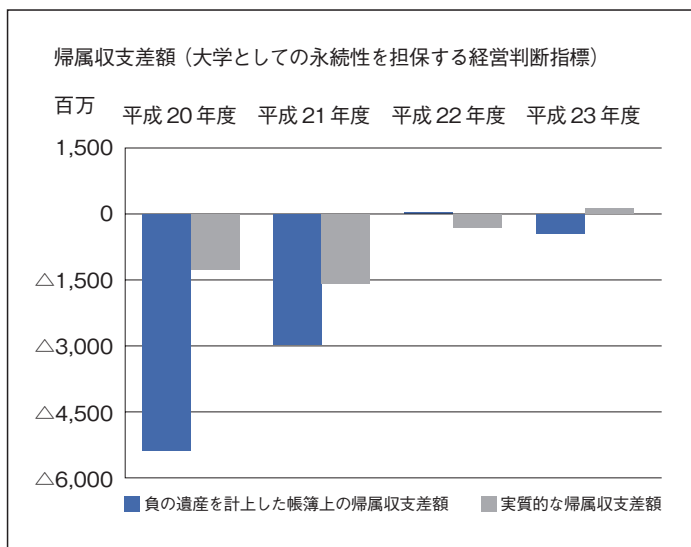
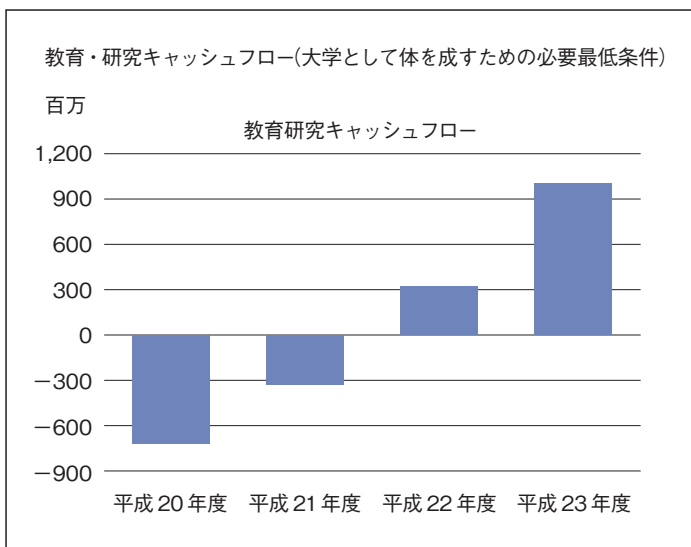
資産として受け継いでいかざるを得ない宿命にある。この事實は、未だ過去の清算が終了していない事を意味している。さらに、それらの評価損額は、その年度の帰属収支差額に計上しなければならない。つまり平成22年度は、医療ファンドの回収金を収入として計上することにより帰属収支差額が黒字決算となった。しかし平成23年度、50%を超す元本割れによる債権の評価損額が発生すれば、その差額を支出として計上しなければならない。したがって、帳簿上での帰属収支差額が実際とは異なり、平成23年度は大幅赤字決算を覚悟しなければならなかった。そこで、負の遺産の早期清算を目的に、元本割れを含めた全てのオリジナル有価証券の評価損額(5億7000万円)を平成23年度決算に組み入れることにした。これで本学は過去の負の遺産を一応整理したことになる。

しかしながら、3・11の東北

大震災に端を発し、年度を超えて2年次入学を希望する編入生の受け入れを含め、想定より多くの編入生を確保することができた。また、平成23年度から、文部科学省経常費補助金制度の変更(一般補助と特別補助との比率変更)により、教員の補助金が増額された。さらに、①教育・研究・管理を含めた法人全体の節約、儉約による予算の未執行、②予備費の内、約1/4が帰属収支差額に影響しない機器備品(被災者支援歯科診療車、短大女子トイレ改修等)であったこと、③3・11後、計画停電の影響等による病院医療収入の減少予測を覆し、横浜クリニックと合わせても増収になったこと、そして④平成23年度神奈川県からの補助金(“地域支え合い体制づくり”)交付や、科研費間接経費等により収入も増加した。

これらの結果を総合すると、平成23年度決算は、教育研究キャッシュフローで約10億円の黒字となった。これで、学校法人としての体を成す必要最低

条件である教育研究キャッシュフローは平成22年度、平成23年度と2年連続して黒字となり、B2評価からB1をスキップし、B0評価への格上げが確定した(大学の経営状況はAからB4までの7段階の判断指標で定量評価される)。一方、大学の永続性を担保する経営判断指標である帰属収支差額は、4億3500万円の赤字決算となった。しかし、過去の負の遺産である有価証券の評価損額5億7000万円を組み入れなければ、1億3500万円の黒字となったはずである。それは、実際に本学の経営判断指標がわずか2年でB2からB1、B0をスキップし、Aランクへ一気に跳ね上がったことを意味している。すなわち、10年来成しえなかった帰属収支差額の黒字化達成を平成23年度初めて実力で勝ち取ったことになるのである。帳簿上では赤字決算であるが、実態としてのこの快挙は、教職員の皆様方の総合力の賜物であり、改めて教職員の皆様方に感謝の意を表したい。



# 平成23年度決算について

平成23年度決算は、平成24年5月22日(火)に監事の監査報告を受けて、平成24年5月23日(水)に理事会で議決され同日開催の評議員会で報告されました。

学生数の減少により対前年度比では減収となりましたが、人員減による人件費支出の減少、また教職員一丸となった経費削減努力の結果、教育研究キャッシュフローは10億円超の黒字を達成しました。

ただし、減価償却引当特定資産として保有している有価証券の価格下落による評価損を計上したことにより、帰属収支差額は4億3,500万円の支出超過となりました。しかしながら、有価証券の評価差額・処分差額を差し引いた、実質的な帰属収支差額は1億3,500万円の収入超過であり、この2年間で大学の収支状況は飛躍的に改善しました。

なお、近日中に神奈川歯科大学及び湘南短期大学のホームページにも、事業報告や詳細な財務報告を公開しますので、ご覧下さい。

## 1. 消費収支計算書 23年4月1日から24年3月31日まで (単位 円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	4,067,730,000	4,064,326,000	3,404,000
手数料	32,400,000	33,305,900	▲905,900
寄付金	15,580,000	28,460,852	▲12,880,852
補助金	416,330,000	429,886,230	▲13,556,230
国庫補助金	411,400,000	411,401,000	▲1,000
地方公共団体補助金	4,930,000	18,485,230	▲13,555,230
資産売却差額			0
事業収入	2,215,430,000	2,278,807,864	▲63,377,864
雑収入	483,660,000	498,689,499	▲15,029,499
帰属収入合計	7,277,130,000	7,383,157,143	▲106,027,143
基本金組入額合計	0	▲4,090,964	4,090,964
消費収入の部合計	7,277,130,000	7,379,066,179	▲101,936,179

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	4,090,500,000	4,113,255,530	▲22,755,530
教育研究経費	2,430,197,540	2,336,966,741	93,230,799
管理経費	824,981,581	775,530,567	49,451,014
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	661,200,000	593,282,508	67,917,492
徴収不能引当金繰入額	3,500,000	338,859	3,161,141
〔予備費〕	[107,899,121] 42,100,879		42,100,879
消費支出の部合計	8,052,480,000	7,819,374,205	233,105,795
当年度消費支出超過額	775,350,000	440,308,026	
前年度繰越消費支出超過額	9,202,530,000	9,202,527,171	
基本金取崩額	634,930,000	565,498,204	
翌年度繰越消費支出超過額	9,342,950,000	9,077,336,993	

## 2. 資金収支計算書 23年4月1日から24年3月31日まで (単位 円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,067,730,000	4,064,326,000	3,404,000
手数料収入	32,400,000	33,305,900	▲905,900
寄付金収入	13,230,000	18,834,000	▲5,604,000
補助金収入	416,330,000	429,886,230	▲13,556,230
国庫補助金収入	411,400,000	411,401,000	▲1,000
地方公共団体補助金収入	4,930,000	18,485,230	▲13,555,230
資産運用収入	46,000,000	49,680,798	▲3,680,798
資産売却収入	0	10,280,959	▲10,280,959
事業収入	2,215,430,000	2,278,807,864	▲63,377,864
雑収入	483,660,000	498,689,499	▲15,029,499
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	679,200,000	714,835,000	▲35,635,000
その他の収入	2,201,860,000	2,246,392,569	▲44,532,569
資金収入調整勘定	▲1,215,290,000	▲1,271,668,912	56,378,912
前年度繰越支払資金	2,004,110,000	2,004,111,339	
収入の部合計	10,944,660,000	11,077,481,246	▲132,821,246
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,211,360,000	4,221,677,633	▲10,317,633
教育研究経費支出	1,514,107,540	1,425,213,346	88,894,194
管理経費支出	707,071,581	657,586,819	49,484,762
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	27,710,000	14,270,000	13,440,000
設備関係支出	61,509,450	80,618,983	▲19,109,533
資産運用支出	700,000,000	695,789,573	4,210,427
その他の支出	1,694,100,000	1,700,129,541	▲6,029,541
〔予備費〕	[144,128,571] 5,871,429		5,871,429
資金支出調整勘定	▲300,510,000	▲323,932,012	23,422,012
次年度繰越支払資金	2,323,440,000	2,606,127,363	▲282,687,363
支出の部合計	10,944,660,000	11,077,481,246	▲132,821,246

## 3. 貸借対照表 24年3月31日まで (単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	24,379,096,713	25,336,091,313	▲956,994,600
有形固定資産	17,393,995,467	18,347,372,298	▲953,376,831
その他の固定資産	6,985,101,246	6,988,719,015	▲3,617,769
流動資産	3,529,525,378	3,078,362,787	451,162,591
資産の部合計	27,908,622,091	28,414,454,100	▲505,832,009
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,324,285,164	2,432,707,267	▲108,422,103
流動負債	1,166,131,501	1,127,324,345	38,807,156
負債の部合計	3,490,416,665	3,560,031,612	▲69,614,947
資本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	32,745,542,419	33,306,949,659	▲561,407,240
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	86,000,000	86,000,000	0
第4号基本金	664,000,000	664,000,000	0
基本金の部合計	33,495,542,419	34,056,949,659	▲561,407,240
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	9,077,336,993	9,202,527,171	▲125,190,178
消費収支差額の部合計	▲9,077,336,993	▲9,202,527,171	125,190,178
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,908,622,091	28,414,454,100	▲505,832,009

## 新任挨拶



横浜クリニック  
院長 井野 智

横浜クリニックは、平成14年7月に開設して今年で10周年を迎えます。私は4代目院長として就任直後より、残された過去の関係資料を紐とき、横浜クリニックの誕生からの10年間、推進力としてご尽力されてきた多くの関係者の皆様方の足跡に触れる度、決して平たんな道程ではなかったことと推察し、そのご尽力に対し、心より深く感謝すると共に、その重責を真摯に受け止めております。

横浜クリニックは、本院(横須賀)とは異なり、施設基準上では「病院」ではなく「診療所」ではありますが、開設以来、専門性を活かした歯科

医療と共に、高度医療機器を擁する医科を併設して、先進医療を提供し、最近では年間で約10万名(延べ)の患者さんが来院されています。もちろん、本学は、横浜クリニック開設にあたり、全国の歯学部にも先駆け、研修歯科医制度の必修化に向けた臨床教育体制を充実させる必要性を認識していたことから、建屋の6・7階部分には、研修室・シミュレーション教室・図書室等を擁した教育研修施設をも整備したことから「横浜研修センター」として、次世代の歯科医療を担う歯学部や歯科衛生士学科の学生、研修歯科医の研修施設といった側面での役割も担って参りました。

一方、財政面では、設立当初の投資(約48億円)から始まり10年間で累積した運営赤字は、実に約85億円にのぼり、さらに、医療器具・機器等の備品を加算すると約100億円ということになります。ここ数年では、改善の兆しがあるものの、平成22年度決算でも約32億円の

支出超過(教員人件費を含まず)となり、法人の帰属収支差額に大きな影響を与え、誠に残念ながら、不採算部門の象徴的な存在という見方もあります。今後、この状態が継続するとすれば、先の不正投資事件以上に、本法人にとって負の遺産となりうる可能性もあり、大胆な改革が必要な状況です。今後、管理運営を引き継ぐことになった私共としましては、現状の問題点を分析・整理した上で、スタッフの皆さんの自主性・責任感を醸成しながら、できるだけ具体的な計画を立案、実行していきたいと考えております。

今年度の横浜クリニック・執行部が策定した運営骨子の中から掲げたスローガンは、“支出は前年度比13%減と13%増収で、資金収支バランスを勝ち取る!”とし、一歩ずつでも改善させるべく、取り組んでいるところです。幸い、設備機器(建物を除く)の減価償却費(約16億円)は定額10年で計上されていることから、11年目に入る横浜クリニックは、本年度(平成24年度)で償却完了します。すなわ

ち、次年度から未来に向けた新たなチャレンジ(設備投資)が可能であり、横須賀本校から自立し、真の意味で“不羈独立”の精神で、新たな10年の歩みを始めるチャンスが到来したことになります。近年では、高齢者社会が加速的に進行し、患者さんの疾病構造も多様化していることから、更なる医科診療体制の強化の準備も進めております。その一環として、今年度より赴任された渡邊浩之副院長(医科部門長)を中心に「地域医療連携室」を新たに設置し、昭和大学の協力を得て、消化器外来を発足し、チャンスに乗じて発展的な戦略を組み直しています。

今後、横浜クリニックの「診療所」という利点を活かし、我々を取り巻く地域環境の変化に柔軟かつスピーディーに対応し、経験豊富なスタッフを中心に、良質で安全な医療の提供を心掛け、横浜クリニックの役割を明確にして、地域の医療機関との連携を推進していきたいと考えております。何卒、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。



横浜クリニック  
特任教授 渡邊浩之

この度縁あって神奈川歯科大学内科特任教授として横浜クリニックでの診療と大学での講義を担当することになりました。鹿島理事長に初めてお会いした印象は大学改革への強い情熱を感じました。私は昭和大学横浜市北部病院で平成13年4月開院時より医療安全の仕事に携わりました。当時厚生

労働省をはじめ国をあげて医療安全と患者中心の医療が叫ばれていました。初代院長の故黒川高秀先生は医療安全と患者中心の医療に力を注がれ、開院当初は1日の診療が終わると各部署を回られ職員を激励されていました。私もお供しましたが、63歳の年齢にも関わらず理想とする病院建設へのエネルギーが身体に漲り圧倒された覚えがあります。鹿島先生とお会いした時には相通じるものを感じました。

私は昭和47年昭和大学医学部を卒業後、学生のころから興味があった病理学を学び昭和53年に昭和大学第2内科に入局しました。その後東海大学医学部の故三輪剛教授の教室で消化管内視鏡診

断学を勉強し、内視鏡を中心に消化器内科をやってきました。前勤務地の山梨赤十字病院は富士北麓地域の中核病院で上部・下部消化管出血を含む消化器疾患を昼夜に渡り診療してきました。特に大腸癌は初診時に肝臓転移や腸閉塞をおこしている例も少なく、外科の先生の助けを必要とした症例も多々ありました。

またウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌なども多く、山梨県は全国でも肝臓癌の多い地域として有名で山梨大学が中心となって肝臓癌撲滅キャンペーンを行っています。東大名誉教授小侯政男先生、山梨大学第1内科教授榎本信幸先生を中心とした肝臓疾患の研究会も盛んで肝臓疾患に関して勉強す

る機会を与えて戴きました。多くの上部および下部消化管の癌は早期に発見し、適切な治療を行えば大事に至らなくて済みます。横浜クリニックでは早期発見・早期治療を心がけていきたいと思っております。

日赤退職後楽な人生を歩むこともできました。幸い健康に恵まれ、自分の人生に生きた証を残したいとの思いがありました。神奈川歯科大学での仕事で社会に貢献できるのではないかと考えお引き受けすることにしました。大学、横浜クリニック、ホリスティック・ホールディングスすべての方たちが喜べる結果を出すことが私の役割だと思っております。不慣れな点もあると思っております。どうかよろしくお願い致します。

## 平成24年度入学式

4月3日(火)、神奈川歯科大学と湘南短期大学の合同の平成24年度入学式が行われました。

当日は穏やかな気候に恵まれ神奈川歯科大学81名、湘南短期大学174名(歯科衛生学科81名、看護学科93名)、合計で255名の入学生が保護者関係者とともに式場である大講堂に集まりました。

今年度はオープニングセレモニーとしてバイオリンとピアノによる演奏で始まり、



バイオリニスト松井利世子氏

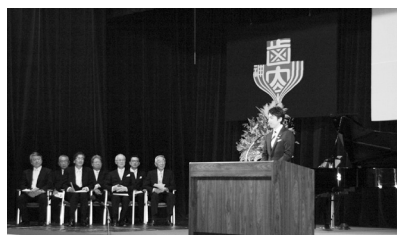
来賓として横須賀出身の小泉進次郎衆議院議員にお越しいただき、心温まる祝辞をいただきました。

佐藤学長からは、歯科医師、歯科衛生士、看護師などの職業は、いずれも患者様(人間)を相手にする高度な専門医療職であることから、これらを目指す新入生にとって

は、病気を抱えている患者様の心身両面にわたる思いやりの心、愛の精神(建学の精神)が重要であること。そのためには、まず自分自身が人間的に成長することが第一歩となるので、自分自身を磨くとともに、専門知識、専門技術の習得に専念していただきたいとの祝辞があり医療人に向けての一步がスタートしました。

入学者と保護者関係者、また本法人関係者を含めると約700名の列席があり、盛大な入学式となりました。

また、3月30日(金)には神奈川歯科大学歯学部2年次への編入生5名の編入生入学式が、4月12日(木)には28名の新入生を迎えた神奈川歯科大学大学院の入学式が行われました。



小泉進次郎衆議院議員

## メンテナンス科新設

本年度より、神奈川歯科大学附属病院にメンテナンス科が発足しました。メンテナンス科はその名の通り、治療により治癒した口腔を維持管理していくことを目的としています。この分野は、歯科予防処置、歯科保健指導とよばれ、歯科衛生士の最も得意とする分野

で活躍する場です。その他に、横須賀市成人健診、自費の健診にも対応します。

また、湘南短期大学歯科衛生学科学生の臨床実習の場としても活用されています。

場所は4階で、Dr 1名歯科衛生士1名の小所帯で本部棟寄りユ

ニット6台を使用します。発足したばかりでまだまだ様子を見ながら試行錯誤が続いていますが、今後対応出来る範囲を徐々に広げていきたいと考えています。



## 第43回神奈川歯科大学 霊供養の会

第43回諸霊供養の会を平成24年4月21日(土)本学大講堂にて執り行いました。

授業カリキュラム変更に伴い、延期させていただいた平成23年度の開催も併せた式典と致しました。

本年度も、ご献体頂きました方々と共に、本学死因調査事務所及び本年度より稼働しております、死因究明事務所にて法医解剖・検案をさせて頂きました方々の御霊に対し、合同解剖慰霊祭として執り行わせて頂きました。当日は、心配しておりました雨も降り出すことはなく、若干肌寒い気候となりましたがご来賓として、吉田雄人横須賀市長、木村健蔵県議会議員、亀井貴嗣県議会議員をはじめ、会

員様、ご遺族様、ご来賓、教職員、歯学部3年生、湘南短期大学看護学科及び歯科衛生学科学生代表ら、総勢500名の方々にご参列賜りました。

平田副学長による司会進行で、式典は厳かに始まりました。峯村法人事務局長の開会のことばに続き、湘南短期大学看護学科鈴木良子教授より、平成22・23年度にご成願されました53名の方のご芳名拝読をさせて頂きました。その方々を加えた献体者御芳名帳が、高橋常男教授の手により祭壇中央に奉納されました。その後、法医解剖・検案をさせて頂きました100名の方々のご芳名帳を、津田征郎客員教授と長谷川巖非常勤講師の手

で同じく祭壇中央に奉納させていただきました。佐藤学長からご献体成願者1798柱の御霊と法医解剖800柱の御霊に対する慰霊の言葉に続き、3年生代表相馬聡さんと若森可奈さんがご献体いただいた方々と、ご理解いただきましたご遺族様に対する深い感謝の気持ちが入められた弔辞を読み上げました。

会場には、ヨコハマロビンズ様による穏やかかつ荘厳な楽曲が流れ、参列者全員がそれぞれ一基(ひとつ)のカーネーションを手に、献体成願者ならびに法医解剖諸霊位のご冥福を祈って礼拝いたしました。

次いで、公務ご多忙の中ご臨賜りました吉田雄人横須賀市長より「ご献体の医学教育への貢献は計り知れないものがある」等のお言葉を賜りました。市長におかれましては、式典終了まで着座いただきました。

高橋常男教授のご参列者様への挨拶を頂き、峯村法人事務局長より閉会のことばをもって、予定時刻の正午に式典は無事終了いたしました。



# 教学部だより

## 歯学部

### 【平成23年度特待生表彰式】

神奈川歯科大学では学業、人物ともに特に優秀な者を特待生として表彰しています。

5月24日(木)に平成23年度特待生表彰式が行われ、佐藤学長より16名の特待生に対し一人ひとりに賞状が手渡されました。

特待生は次年度の授業料が減額される制度で、学生にとって勉学の大きな励みになっています。

平成23年度特待生  
 [2年] 片桐 法香、木村 裕二郎、  
 下 湘鈞  
 [3年] 小瀬 貴之、相馬 聡宏、  
 田島 愛弓、榊田 直哉

[4年] 石井 滋、杉山 聡美、  
 西村 隆克  
 [5年] 井上 拓也、平岡 優迪、  
 村田 陽太郎  
 [6年] 佐藤 生野、沼田 彩佳、  
 山田 峻太郎



## 短期大学

### 【一日研修】

#### 《歯科衛生学科1・2年生合同 ～東京ディズニーシーへ～》

4月6日(金)、歯科衛生学科1・2年生合同で1日研修が行われました。バス4台に分乗し、大学を出発、到着後の記念写真撮影後は入学間もない1年生は実習グループでの行動、2年生は友人同士の自由行動により、本研修の目的である「学外において友情を培い、湘南短期大学生としての自覚と連帯感・士気の高揚を図り、永続する友情と大学の信頼感を築くこと」を学びました。

短い時間ではありましたが、沢山の笑顔とお土産を持って帰路に

つきました。研修で得た友情や絆は今後の学生生活において大きな力となるものと願っています。

#### 《看護学科1年生 ～東京ディズニーランドへ～》

4月5日(木)、看護学科新入学生の1日研修を実施しました。研修の目的は、学生相互ならびに学生と教員相互の交流と親睦です。当日は学内よりバス3台で午前8時30分に出発し、予定通り午後10時ごろ研修場所に到着しました。入園前に集合写真を撮ってから入園し、集合時間(午後4時45分)まで園内フリータイムで行動しました。通常の授業等では困難な看護学科参加者の親睦をはかることができました。午後5時帰路につき午後7

時に学内に到着しました。天候にも恵まれ、トラブルもなく和やかな雰囲気で行ってきたことは何よりの幸いでした。

### 【短期大学保護者会総会開催される】

5月30日(水)3時より、リニューアルされた学食一階において保護者会総会が開催されました。総会には保護者の方々27名と教員6名が参加しました。議案は平成24年度保護者会役員選出と承認、23年度事業報告、23年度湘南短期大学保護者会決算、24年度事業案、24年度湘南短期大学保護者会予算案の5案あり、審議の結果いずれも可決されました。従いまして、平成23年度の松村会長から

奥野会長に引き継がれ新体制で活動することになりました。総会終了後、休憩を挟み同じ場所で保護者会主催で教員との懇親会が開催されました。湘南短期大学では、教育や学生生活の向上を目指し、学生はもとより保護者の方々からのご意見やご要望も重視しております。そのため、学長、副学長、教学部長をはじめ多くの教員が参加し、保護者の方々の疑問に答え、要望に耳を傾け、忌憚りの無い意見を多数頂戴し、明日からの教育に還元し学校の質の向上に努めるべく聞き入っていました。懇親会参加者は保護者27名、教員24名でほぼ1対1での意見交換ができ有意義な懇親会となりました。



歯科衛生学科1年



歯科衛生学科2年



看護学科1年

## オープンキャンパス日程

神奈川歯科大学		
	開催日程	開催時間
*	7月15日(日)	13:00～16:00
*	8月5日(日)	13:00～16:00
	8月24日(金) 会場: 横浜クリニック	14:00～16:00
*	9月23日(日)	13:00～16:00
	10月6日(土)～7日(日)	12:00～15:00 (稲岡祭 個別相談のみ)
	11月25日(日)	13:00～16:00
	2013年3月24日(日)	13:00～16:00

◎予約制(開催日前日まで)。10月6-7日は予約不要です。

湘南短期大学		
	開催日程	開催時間
*	7月15日(日)	13:00～16:00
	7月28日(土) 会場: 歯科衛生学科(横浜クリニック)、看護学科(本学)	14:00～16:00
*	8月5日(日)	13:00～16:00
	8月23日(木)	13:00～16:00
*	9月23日(日)	13:00～16:00
	10月6日(土)～7日(日)	12:00～15:00 (稲岡祭 個別相談のみ)
	11月11日(日)	13:00～16:00
	2013年2月17日(日)	13:00～16:00
	2013年3月24日(日)	13:00～16:00

◎予約不要

\*体験実習: 神奈川歯科大学と湘南短期大学歯科衛生学科の合同開催